




『旅人』寸評

- ・旅に幸あれと祈りたくなる印象の作品
- ・主和音がほぼ全小節にわたって出現するが、転回形をもちいてくどさを緩和してある
- ・メロディの要所にスラーが振ってある
- ・m.12-13 バスにメロディをもってきて右手の和音とのくみあわせも良好
- ・タイトルもストレートにつたわる

完成度をさらに上げるために

- ・テンポ指示 ♩=93 はm.1につけるのもうすこしModerato寄りに移動
- ・m.3 b.2 右手の16分音符は次の八分音符とつなげずに
7'  とする
- ・m.9 b.2 右手の  は  と分けて第3拍がみえるようにしよう
- ・m.16の終止線は大譜表をつらぬいてつけよう
- ・和声づけの工夫として：

半音進行のクリシェを利用 (m.2-4)



メロディから予想されるひびきをうらぎる (m.10-11)



- ・m.16 4度上行をつづけるメロディは調性をかんにくい

m.=measure 小節番号のことです。
b.=beat 拍のことです。

サブドミナントをつかうとひびきが多楽調になります。

持麿 勉